



開成町青少年指導員連絡協議会

会長 田村彰偉

日頃より、青少年指導員の活動にご理解、ご協力いただき、心より感謝申し上げます。

昨年度から各種行事を少しずつ再開することができ、今年度はあじさいまつりでの手作り広場、ジュニアリーダーサマーキャンプなど、子どもたちに多くの体験活動の場を提供することができました。

ジュニアリーダーサマーキャンプは3年ぶりの開催のため、どのくらいの子どもたちが参加してくれるのか心配していましたが、子どもたちもキャンプを楽しみに待っていたようで、多くの参加希望者が集まり、サマーキャンプを企画した私たち指導員一同、うれしく思いました。

特に今回は、キャンプを経験した指導員もリーダーの子どもたちも少なく、2日間のプログラムをスムーズに進められるか心配でしたが、過去にサマーキャンプ経験のある高校生や大学生がジュニアリーダーとしてサポートしてくれたことで、みんな楽しく、無事に活動することができました。

ジュニアリーダーは小中学生と年齢が近いため、子どもたちの頼れるお兄さんお姉さんとしての活躍がますます期待されます。今後も、ジュニアリーダーやリーダーが、初めて参加する子どもたちをサポートしていく、つながりの機会を提供していきたいと思えます。

来年度も子どもたちが楽しみながらいろいろな体験ができるプログラムを企画し、このサポートの輪を繋げていきたいと思っておりますので、今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

ジュニアリーダーサマーキャンプ



7月9日(土)から1泊2日のジュニアリーダーサマーキャンプを御殿場の国立中央青少年交流の家で実施し、小学5年生から中学3年生までの33人が参加しました。今回は、高校生と大学生のジュニアリーダー5人も、企画の段階から参加してくれました。

1日目は、キャンプ場での野外炊事、フードハンティングラリー、キャンプファイヤーの体験です。

昼食のほうとう作り、夕食のカレーライス作りでは、完成までの手順を実体験することで「食」の大切さを学びました。初めは少し躊躇する場面もありましたが、作業を分担することでそれぞれの責任が生まれ、作業が動き出し、食材の扱いや火の扱いも目的を見据えながら行っていました。完成したほうとう、カレーライスは、歓喜の声とともに完食しました。

フードハンティングラリーは、指示書と地図を見て食材のカードをゲットしていく実践型ゲームです。順位がかかったゲームなので作戦を立て目的に向かって行動するのですが、なかなかうまくいきません。でも、お互いの情報を共有することで目的を達成させ、見事クリアすることができました。

キャンプファイヤーは、厳かな雰囲気が始まり、暗闇と炎でわくわくしました。各チームに課せられた「出し物」のジェスチャーゲームやクイズなど、全員が参加して場がどんどん盛り上がっていききました。最後のジェンカは、いつ終わるのだろうと思わせるほどの盛り上がりでした。時刻は就寝を迎え、テントで一夜を過ごしました。



野外炊事は火力の調節が難しかったね。



昼食のほうとう作り。麺から作ったよ。



みんなで協力して作った食事は最高！



炎を囲んで楽しいレクリエーション。



火の神から「友情の火」を授かりました。

今回のキャンプについて

文命中1年 矢野百々花

今回、はじめてジュニアリーダーのサマーキャンプに参加しました。ジュニアリーダー研修は、瀬戸屋敷のおにぎり作りで一度参加しました。私は、5年生の時も、6年生の時も、林間学校、修学旅行に行けませんでした。でも、今回、やっと泊まるキャンプができました。本当は、部活が忙しくてあまり行きたくなかったけど、行ってみると、みんな優しく、すごく楽しかったです。特に、ほうとうやカレーのご飯づくりが楽しくて、あつという間に時間が過ぎていきました。

2日目の山登りは足が痛くなった、時には腰が痛くなったりと、いろいろなことがありましたが、いざやりとげると達成感がすごかったです。特にけがもなく、本当によかったです。

料理を作るとき、一番大変だったのは、火をおこすことです。ほうとうの時は、全然つかなくて、とても苦戦しました。カレーの時は、コツをつかんだのか、すぐに大きな火をおこすことができました。ちょっとほうとうはみそを入れすぎてこくなっちゃったけど、ほうとうもカレーも、自分で作るとすごくおいしく感じました。

また、このようなことをやるなら、絶対に参加したいと思います！



1804mの富士山双子山到着。それまでの疲れが吹き飛ぶ壮大な景色を堪能。



2日目は、体力勝負の双子山ふたごやまトレッキングです。富士山御殿場口新五合目から出発し、まずは途中の大石茶屋まで足慣らしです。わずかな距離ですが、慣れない斜面と砂で足取りが重く、なかなか思うように進みません。疲労がたまっていく中、お互いを励まし合い、何とか茶屋まで辿り着きひと休みです。空は雲が激しく入れ替わり、天候の不安もありましたが、目指すは双子山山頂、重い足取りですが、頂上近くになると走り出すほど



砂に足をとられながらも、無事登山口まで下山しました。



山頂でのお弁当タイム。仲間との会話も弾みました。



途中の休憩。ゴールはもうすぐ。

の元気が蘇っていました。頂上での屋食は、本当に楽しそうでした。帰りは元気いっぱい声も高らかに下山しました。
自然の中で共同生活の楽しさを学ぶことができました。

一声人声

コロナ対策をとりながら、ようやく行事も開催されるようになり、徐々にではありますが、町に子どもたちの声が聞こえるようになってきました。まだ、コロナが収束したわけではないので、子どもたちの元気な声が聞こえると、何だか自分も元気が出るような気がしてきます。

このまま、子どもたちの参加する行事が一つでも多く開催されていくことを願いつつ、今後も子どもたちの記憶に残るような行事を考え、実行していきたいと切に願っています。一人でも多くの子どもたちの笑顔が見たいですからね。



青少年指導員事業をお手伝いしてくれる中学生から大学生までのジュニアリーダーを募集しています。現在、高校生や大学生がサマーキャンプ、ジュニアリーダー研修など、子どもたちと一緒に楽しく活動しています。興味がある方はご連絡ください。

教育委員会生涯学習課

☎ 0465-8410325

募集しています！
ジュニアリーダー

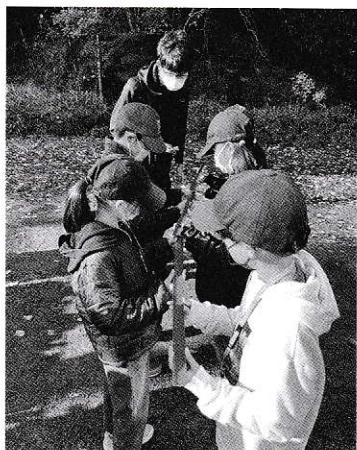


左の2人がジュニアリーダーの大学生。
左から磯口 龍平さんと石井 俊馬さん。

ジュニアリーダー研修

12月4日(日)、ジュニアリーダー研修を行いました。30人の小中学生に加え、高校生、大学生のジュニアリーダー3人も参加しました。12月になって急に気温が下がり、朝の集合時間は寒いくらいです。今年最後のイベントでしたが、朝早くからたくさんの子供たちが参加してくれました。日帰りのイベントとはいえ、内容盛りだくさんです。

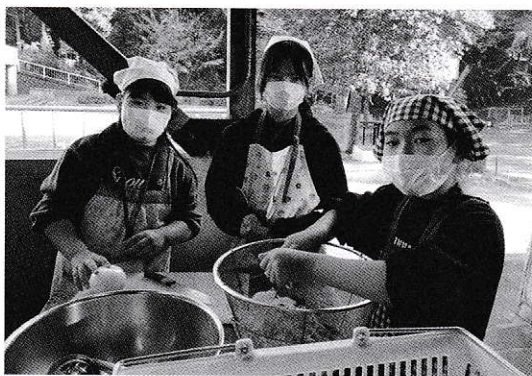
1つ目の会場である厚木市七沢自然ふれあいセンターに到着してすぐに、アイスブレイキングの挨拶です。大人になっても挨拶は大切な会話のきっかけなので大切にしていきたいですね。挨拶も終わり、仲間と仲良くなつてからは、レクリエーションと炊事です。レクリエーションは、グルー



みんなで協力したパイプライン。



鍋の様子を見ながら薪を追加。



野菜を切って、豚汁の下準備。



仲間と一緒にがんばった野外炊事。豚汁は体が温まり、仲間とのきずなも深まりました。

野外炊事のメニューは豚汁と白米で、薪割り体験もしました。火起こしに苦戦していたグループもありましたが、最後はおいしい白米と豚汁ができてみんなの笑顔が満開でした。

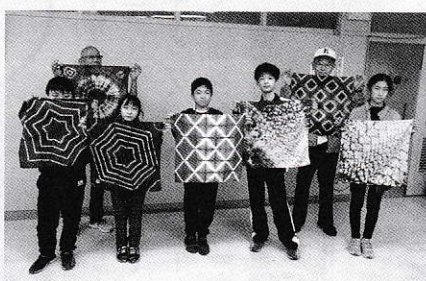
2つ目は愛川町の愛川織維会館で藍染体験です。基本の模様は8種類ありますが、それぞれに組み合わせでオリジナルのデザインを考えた子もたくさんいました。真つ白なバンダナを折りたたみ、割り箸と輪ゴムでとめて模様を作りますが、広げて見るまでは出来ばえが分かりません。これも藍染の楽しみの一つですね。

次も友達を誘って参加してほしいです。

3班



2班



1班



藍染体験で作った世界に一つだけのバンダナ。いろいろな模様がすてきだね♡



6班

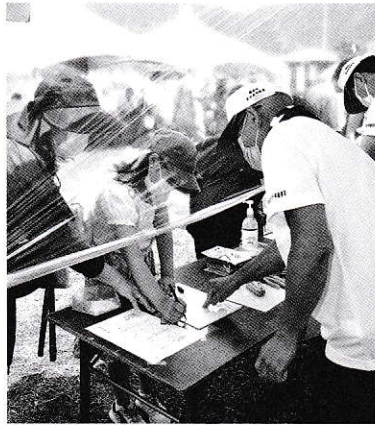


5班



4班

手づくり広場 かざぐるまづくり



ビニールシート越しでの指導。

6月4日(土)、3年ぶりのあじさいまつり初日は晴天でした。青少年指導員は、かざぐるまを作って好きな色に着色できる「手づくり広場」を開きました。かざぐるまは、針金を取り付けてある持ち手の竹の棒と透明フィルム、ストローなどを組み合わせて作ります。比較的短時間で、よく回るものができるので、あじさいまつりを見て回る間はもちろん、持ち帰ってからでも楽しめるので好評です。

以前の開催では8枚羽のかざぐるまを作ったこともあり、それを楽しみにきてくれた人もいたのですが、コロナ対策で、道具の消毒やビニールシート越しのやりとりで一度に対応できる人数を少なくしたため、行列ができないよう途中から4枚羽の制作だけになってしまいました。しかし、初めてかざぐるま作りをお手



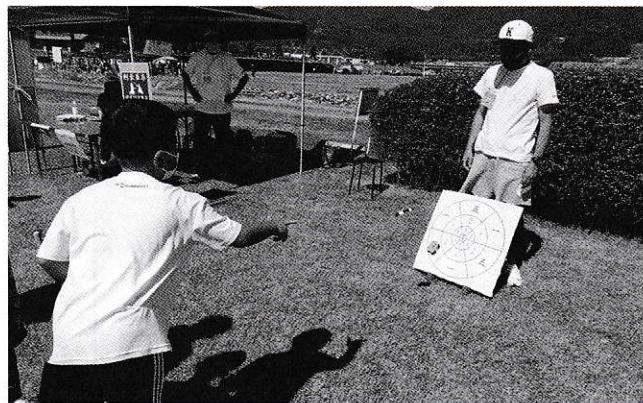
みんな上手にできました。

伝いする指導員が多かったので、種類を絞ったことで効率よく多くの人に体験してもらうことができました。

準備段階で「コロナの影響でお客さんが来なかったらどうしよう」なんて心配していたのは全くの取り越し苦労でした。400本ほどあった竹が全部なくなつたのが14時前で、少し早い店じまいとなりました。

また、募金箱に集まった4957円は、日本赤十字社のウクライナ人道危機救援金として役立てていただくことになりました。ご協力ありがとうございました。

スポ・レクフェスティバル2022

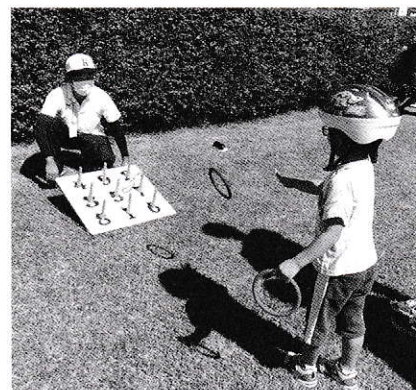


スポンジでできた手裏剣型のダーツ。

10月2日(日)、3年ぶりのスポレクを祝うかのような秋晴れのもと開催されました。コロナ対策を行いながら、青少年指導員は「手裏剣ダーツ」と「輪投げ」を担当しました。

参加した子どもも大人も、手裏剣や輪を投げるたびに、外れると残念がまり、入ると大喜びしていました。あまりの人気で指導員は休む暇もないほどでした。参加者は行列が途切れると何回も並び直して、汗を流しながらゲームを楽しんでいました。withコロナでも行事ができる喜びを感じる1日でした。

夜間パトロール



今回初種目の輪投げ。ピンゴを狙って!

今年度も昨年度に引き続き、夏季夜間パトロールを実施しました。

青少年指導員と文命中おやじの会、青少年問題協議会が連携して、公園、駅、広場、コンビニエンスストア、スーパーマーケットの周辺を見回り、「こんばんは」「気をつけて帰るんだよ」と声を掛けました。最近、夜間に外出している子どもは少なくなっている印象を受けました。

パトロールには子どもたちを犯罪、トラブル、事故から守る大切な役割があります。各種団体や地域の皆さんも子どもたちの健全な育成と安全を心がけて温かく見守り、夜間に外出している子どもを見かけたら、早く帰宅するように促しましょう。

28期(令和4・5年度)青少年指導員15人の紹介

【会 長】田村 彰偉 (下島)

【副会長】小原 康晴 (下延沢) 並木 浩 (上島)

【指導員】山本 美由紀 (上延沢) 石塚 一恵 (宮台) 山口 共子 (榎本) 高崎 俊幸 (中家村)

新任の青少年指導員



瀬戸 道博 (岡野・金井島)

初めて経験することばかりなので、先輩指導員の方に教えてもらいながら子どもたちと一緒に楽しく学び成長していけたらよいと思います。



林 幹倫 (上延沢)

先輩指導員の話の伺いご指導いただきながら、子どもたちと一緒に活動する中で、少しでも成長していければと思っています。精一杯がんばります。



井上 和彦 (円中)

先輩指導員の方々からアドバイスをいただきながら、活動を通して、子どもたちの育成に微力ながらも貢献していきたいです。精一杯がんばります。



村上 圭司 (牛島)

昨年より一年ほど参加して、二期目に入りました。新たに青少年指導員としてのスタートです。子どもたちと楽しく過ごせればと思います。



綾部 幸雄 (河原町)

老齢ですがまだまだ元気な自分を活かし、ともに楽しく成長できるような活動を心がけたいと思います。よろしくお願ひします。



森山 善哉 (中家村)

「地域で育てよう青少年！」言葉や損得の外でも、思いやりさえあれば人は繋がること、そしてそこには大きな世界が広がっていることを体験で伝えていきたいです。



井上 桂子 (下島)

拝命したものの青少年指導員ってなんでしょう？という状態でした。活動に参加し、これはラッキーなお役目では？と感じているところです。



小松澤 浩康 (パレット)

以前に娘もイベントでお世話になったこともあり今期より務めさせていただいています。先輩指導員の皆さんと地域活性化のためにがんばります。

青少年
指導員の帽子
覚えてね！

K

中川 文弘 (岡野・金井島)
青少年指導員になった年、サマーキャンプに参加し、タイムスケジュールの正確さにびっくりしました。子どもたちがさまざまな体験活動を通して、一人一人の成長と発達に少しでも携われたことがうれしいです。これからも皆さんの活躍を応援しています。

石井 剛 (パレット)
青少年指導員の活動を通じて地域の子どもたちと触れ合えたことは貴重な経験となりました。また、素晴らしいチームワークで、笑顔で楽しく活動することができました。4年間ありがとうございました。

山内 英輝 (下島)
青少年指導員として8年間活動させていただきましたが、とても楽しい思い出が心に残りました。活動を通じて携わった子どもたち、指導員や事務局の皆さんにとっても感謝しています。この脈やかな活動がこれからも続くことを祈っています。

佐藤 勝彦 (上延沢)
8期16年、いろいろな行事を通して多くの子どもたちと楽しい時間を過ごせたことは、私にとっても貴重な経験となりました。一緒に活動した指導員の皆さん、地域の皆さん、ありがとうございました。

青少年指導員活動を終えて

退任された指導員に「あいさついただきました。(敬称略)」

笠井 正裕 (河原町)

2期4年間務めさせていただきました。さまざまなイベントを通して子どもたち、指導員の方々と楽しく活動することができました。心から感謝しています。今後の皆さんの活躍を祈っています。

木下 裕敬 (円中)

コロナ禍で自分が思い描いていた活動を行うことができませんでしたが、他の指導員と関わりを持ちながらの活動は貴重な経験となりました。コロナも落ち着き、子どもたちの成長のためにいろいろな活動ができていくといいなと思っています。

編集後記

今年度は従来行われていた行事をある程度実施することができました。マスク着用などの制限はありますが、だんだんと以前の状態に戻りつつあります。やはり行事を通して子どもたちと直接触れ合えることはいいですね。指導員もやる気が出ます。来年度はさらに子どもたちと触れ合える機会が増え、子どもたちの明るい声が聞けるようになることを期待しています。